

### 「理Ⅲ合格のための戦略」

私はこの度、東京大学理科三類、通称理三に合格しました。これは、佐賀西高校からは22年ぶりのことです。まず、理三について簡単に説明したいと思います。東大の理系は、理一、理二、理三に分かれており、その中で最も入学するのが難しいのが、理三です。なぜならば、理三は簡単に言うと医学部だからです。合格するには理一、理二の最低点よりも一割多く点を取らなければなりません。理三はネットや雑誌などで、大学受験の最高峰、別格、宇宙人の集団などと評されます。しかも、雑誌やネットによると今年の理科三類受験者のレベルは近年まれにみるほど高く、合格最低点が予備校の予想を大きく超えていました。今年理科三類に合格することは、ほかの年に合格することよりも、かなり難しいといえます。

そんな熾烈な戦いに、どうして私が勝利することができたかを説明したいと思います。まずは入学から本番までの成績の推移を簡単に説明します。

私は中学生のとき、そこまで熱心に勉強をしていませんでしたが、中学校では学年一位であり、特に対策することなく高校入試に合格し、十日間の勉強でラサール高校に合格する実力はありました。また、入学してすぐに行われた県下一斉模試では、県で一位でした。入学当初、私は文系に進もうと考えており、東京大学文科一類という文系の最高峰を志望しておりました。しかし、夏の進研模試で、偏差値が文科一類のボーダーを大きく超えていたので、志望校を理科三類に変更しました。私が受験を楽しめるくらい難しいところは理科三類しかないと思ったからです。

その後、高2の夏まではやや成績が低迷し、学年での順位はトップ3の中で変動していました。進研模試での順位も全国で300番程度でした。しかし、高2の秋で成績が急上昇し、絶対的な学年一位となりました。さらに、進研模試での全国順位も10位程度になりました。

高2の3月では河合全統模試の理科三類志望者の中で一位になりました。高3のときは、東大模試は基本的にC判定でした。これは、ボーダーラインということになりますが、地方公立高校というディスプレイアドバンテージを考慮すると十分であると感じていました。センター試験では、9割6分をとりました。そして、二次の得点はまだわかりませんが、合格しました。本番後の感触としては、よほど運が悪くない限りは合格しているだろうという感じでした。以上で成績の推移の説明を終わります。

また、私自身の説明をします。部活はやっていませんでした。高2の12月までは週四日くらい囲碁をやっていました。学習塾には行っていません。体育祭では屯所をやっていました。

さて、私の勉強法について説明したいと思います。まず、私には全体的な戦略がありました。それは、早い時期に数学の予習を済ませて、早めに受験対策のための演習をすることです。文系理系ともに、東大合格のためには数学は最重要科目だと私は思うからです。これは入学前から考えていたので、数一の予習は入学前の春休みからしておりました。

そして、予習が終わった後は青チャートを3周程度することで基礎を固め、難しい数学の問題集を解き始めました。それは高2の1月からのことでした。この戦略は大成功だったと思います。予習に特化することで高2の夏までの成績はやや低迷しました。しかし、高2の秋での順位の上昇は、この戦略によるものです。高2の秋では、数学の内容が難しくなる時期であり、多くの人の点数が低くなります。しかし、私は早めに予習し、数学を固めていたので、点数は下がりにませんでした。これが私の順位が上昇した理由です。そして、早めに数学が完成したので、センター後には落ち着いて他教科の対策をできま

した。具体的な計画の立て方を説明します。具体的な計画は月単位で立てました。どんな問題集、参考書を何月にやるかを決めました。また、それを決めるためには、学校の授業の予定を知る必要があったので、シラバスをよく見ました。また、授業で使う予定の教材について先生に聞くこともありました。次に紹介したい勉強法は、勉強法を勉強するという勉強法です。高1の秋ごろ、私は勉強の効率を上げたいと思い、多くの勉強法に関する本を買いました。そして、それを試し、自分に合えば採用、合わなければやめました。

最後に、モチベーションの維持を最優先しました。まず、やる気がなくなったらさっさと休憩しました。無性にゲームをしたくなったら、すぐにゲームをして、その欲求を満たしてから、勉強に向かいました。次に、東大に関する情報を集めることで、モチベーションを上げました。東大に関しては情報が集めやすかったです。東大に関する番組をチェックしたり、有名な東大生のツイッターをフォローしたり、東大生ユーチューバーの動画を見るなどしました。最後に、自分のやりたいように勉強しました。例えば、ながら勉強は一般的にまずいと言われがちですが、私はそのほうがやる気が出たので、そうしました。模試の復習もすべきだとよくいわれますが、私は間違いが見つかる落ち込むので、やりませんでした。もちろんこれには限度があります。いやでも無理やりやらなければならないことがあります。私は英語のやる気がなかなか出ず、英語をさぼりがちでした。今思えば、無理やりでも毎日コツコツやればもうちょっと楽に合格できたなと思います。これで、勉強法の紹介を終わります。

次にいろいろ自分の意見を言って終わりたいと思います。暗記物は一気に覚えたほうがいいです。例えば、英単語を百個覚えるとき、一日十語覚えるのを十日間続けるよりも、一日同じ百語を覚えようとするのを十日間続けた方が効率が良いです。小テストを直前だけ勉強して点数を取っても何の意味もありません。すぐ忘れます。志望校はとりあえず高めにしといたほうがいいと思います。睡眠時間は削ってはいけません。また個人的にメリハリの面で、休み時間も勉強するのは、やめたほうがいいと思います。休みましょう。人によって異なるとは思いますが、理系教科でノートは取らないほうがいいと思います。授業の理解に努めるべきであり、理解したことは忘れにくいものです。調子が悪いときは散歩するといいいと思います。理系教科でわからない解法があったときは、その着想に至るプロセスを考えました。それが無理なら丸覚えしました。また、成績を上げるためには、課題をやるだけでは不十分です。課題はみんなやるので差が付きません。上げるためには問題集を買ってそれを二周くらいする必要があり。また、東大、京大志望者は、ライバルは関東、関西の私立中高一貫校の生徒であるということ意識すべきです。そして、彼らの情報を集める必要があります。私はそのために、スタディプラスというSNSを活用しました。それを見ればわかりますが、地方の学生は都会の学生よりも圧倒的に勉強時間が少なく、教科書内容が終わるのがかなり遅いです。見たら焦ると思います。

私から言いたいことはまだありますが、きりがないので止めます。